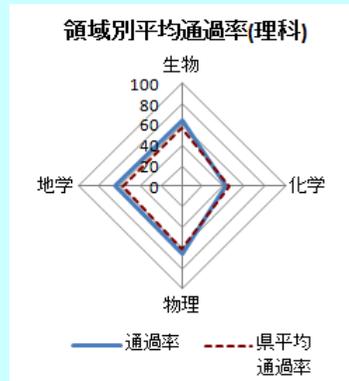


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.5% 県 55.0%)

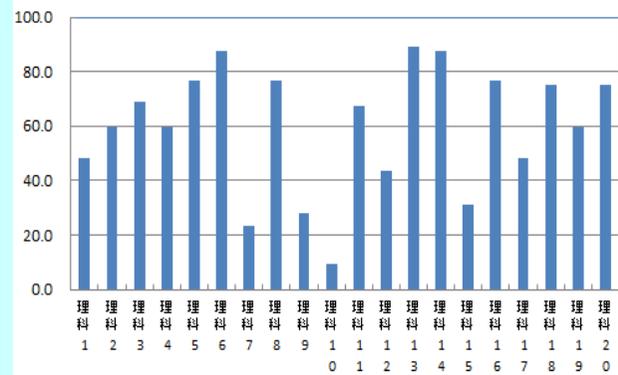
対県比 108%

本年度の結果について

領域別平均通過率



理科の平均通過率



○全体的な傾向について  
 タイプⅠは 67.2%、タイプⅡは 48.0%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容について、定着を図る必要がある。活用する力については、正確な記述ができていない解答があり、思考力や記述力を育てることが必要である。

○昨年度の課題への取組の成果  
 昨年度は、とくに地学と物理の分野で課題が見られた。タイプⅠは 45.8%、タイプⅡは 27.9%の通過率であり、今年度は知識の定着だけでなく、思考活動を工夫し取組をおこなった。結果としては、上述しているように、タイプⅠは67.2%、タイプⅡは48.0%の通過率となり、成果が出たと考えられる。

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比 108%

## 重点課題

### 【課題1】化学領域(設問10) 溶質の再結晶

「溶質の再結晶」において、溶解度と飽和水溶液に関する設問では、通過率 9.4%、誤答率 51.6%、無答率 39.1%であり、溶解度曲線の意味を理解していないため、記述できず、無答率が高くなった。

### 【課題2】地学領域(設問7) 火山の形

火山の形とマグマに含まれる鉱物の成分の関係では、誤答率が 75.0%であった(通過率 23.4%)。鉱物の種類(量)とマグマの粘りけの関係や火山の形との関係が理解できていない。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

### 【課題1】

溶解度や飽和水溶液に関する内容について、授業の中で説明したり、溶解度曲線を使った問題を繰り返し行ったりして、正確な理解を図る。また、学習したことや考えたことをグループやペアで説明させる活動等を行い、説明・記述できる力を育てる。その際に、考察や考えの記述の仕方、説明の仕方などの指導も行う。

### 【課題2】

指導に当たっては、実物の火成岩や鉱物等の標本を観察させたり、教科書や資料の写真等を提示したりすることで、山に関する知識を定着させる。また、火山に関する映像の視聴やモデル実験を取り入れる。そして、小テスト等を行い定着を確認する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 H26 「基礎・基本」	1年生 単元末評価問題	1年生 H26 「基礎・基本」	2年生 小テスト		1・2年生 学年末テスト
目標値		70%	65%	70%	70%		75%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生 H26 「基礎・基本」			2年生 小テスト		1・2年生 学年末テスト
目標値		70%			70%		75%
実施後数値							